



## 表紙写真解説

### オランダ・キンデルダイクの風車群

(写真 帝国書院 2008年9月撮影)

オランダ最大の港町ロッテルダムから東へ約15km。ライン川河口の低湿なデルタ地帯にキンデルダイクは位置する。この一帯には14世紀に始まる干拓によって生まれたポルダーが広がっており、土地が海面よりも低いことから排水の工夫が図られてきた。15世紀以降、オランダ各地に設置されてきた風車は、強い偏西風を利用した排水施設であった。

19世紀に蒸気機関、のちには電力によって効率的に排水が行われるようになると、風車の役割はしだいに失われていった。しかし、キンデルダイクには19機の風車が残されてきたことから、1997年に世界遺産として登録された。写真上方をライン川の下流レク川が右から左へと流れ、一帯は整然とした牧草地が広がっており、集約度の高いオランダの酪農を支えている。こ

れらの農地は海面よりも低く、写真においても農地と水面の高度差がほとんどないことがわかる。

実際、こうした低い土地は常に水害との戦いをしいられてきた。とくに1953年の暴風による高潮の被害は深刻だった。オランダ全体で80か所以上の堤防が決壊し、広い地域が冠水した。約2000人もの犠牲者が出たことから、オランダ政府は北海に流れ込む河川の河口部に堤防を設けて、高潮時に川と海を遮断するデルタ計画を策定。1970年代以降、順次堤防が建設された。また、写真左手の水路出口にあるような排水ポンプにより、土地の安全が確保できるようになった。

現在、この平坦な農地の中に並ぶ風車は、オランダ国内のレクリエーション地域としてはもちろん、国内屈指の国際観光スポットにもなっている。淡水動植物の生息地であることから保護の対象にもなっている。一方、地球の温暖化によって今後起こりうる海面の上昇に向けて、オランダは真剣に対策に乗り出している。

(東京学芸大学教授 加賀美雅弘)